

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493000101	事業の開始年月日	平成21年4月16日
		指定年月日	令和3年4月16日
法人名	社会福祉法人プレマ会		
事業所名	グループホーム そよ風		
所在地	(242-0028) 神奈川県大和市桜森3-4-4		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果 市町村受理日	令和5年4月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・利用者 と利用者家族との信頼関係構築に、力を入れております。 入居に当たっては、施設で出来る事と出来ない事を明確にし、納得の上でそよ風での暮らしを始めてもらっています。 またそよ風職員のみでケア方針や、医療との情報共有が完了してしまわないように心掛けています。 (ケア方針決定に「家族を巻き込む」と伝えています)</p> <p>特にコロナ禍となつてから、生活の様子を家族に見ていただく機会が少なくなっています。その中でそよ風での暮らしに安心していただけるよう、電話連絡や、家族への手紙による報告を欠かさないようにしています。 また感染のリスクも承知してもらった上で、短時間の顔合わせをする機会を設ける事を続けており、お互いに姿を見ていただく事で、精神面の充実も図る事を継続しています。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年2月21日	評価機関 評価決定日	令和5年4月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄線「相模大塚」駅から徒歩2～3分の所にあります。建物は鉄骨造りの3階建てで、1階は同一法人が運営する保育園になっています。スーパーマーケットやレストラン、商店などが近くにある便利な場所に加え、神社や梅林など、のどかさの残る住みやすい環境にあるグループホームです。

<優れている点>

法人の理念を礎として、利用者主体のケアと地域との共生を目指しています。事業所独自の理念を職員の総意で作上げ、更に各ユニットごとの介護目標に具体化し日々の支援に繋げています。例えば、利用者自身のペースで日々の生活が送れるように、食事の際はその日の体調や嗜好を優先し食べられる量だけ食べる、イベントの参加などは利用者の好みや体調に合わせて無理強いしないなど、利用者の意思決定を大切に取組んでいます。また、施設全体が、なるべく入居前の生活に近づけられるように朝、昼、晩と全ての食事を職員が手作りし、家庭の味を大切にしています。食卓テーブルやイス、食器類などもにもこだわり、施設の食事と感じないような陶器類の食器にするなど利用者の安らぎに繋げています。また、安心と安全を優先する事を念頭に、出来るだけ職員の主体性に任せています。特に事業所の行事やイベントは職員の企画や提案を多く取り入れています。年間の研修プログラムに、外部講師による介護技術研修を毎月組み入れてサービスの向上と人材の育成を図っています。

<工夫点>

運営推進会議の書面開催に伴い「事前確認シート」を情報交換の手段とし利用し、各メンバーの意見や活動状況を報告しています。節分で余った大豆をきな粉にして提供するなど、SDGsを意識した取り組みをしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム そよ風
ユニット名	2階 さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所の理念を玄関等に掲示し、職員間で共通的理解を行っている。また母体組織の理念だけではなく、地域密着型サービスの大切な理念を利用者本位に基づいた独自の理念を目標に具体化し、積極的な取組みを行っている。	法人理念を礎に、利用者主体のケアと地域との共生を目指した、事業所独自の介護理念を職員全員で作成し、更に年度ごとにユニット単位で具体的な介護目標の設定をしています。なおユニット目標は半期ごとに振り返りと見直しを行い実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ感染拡大の中においても、音楽ボランティアによる受け入れを積極的に行って、利用者が和やかに過ごせた。また地域ボランティアの方から、畑で採れた野菜をいただく機会があり、今後も地域の方々と活動や役割を通りし繋がりを築けるよう努めたい。	自治会には法人ではなく、一般の個人世帯と同様の立場で加入し、管理者自らが地域との関わりを持つよう努めています。コロナ禍、地域の行事は全て中止となっていますが、コミュニティーセンターで行う隣人会に出向いて情報交換を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	定期的な認知症委員会を通じて、認知症の専門的な学習会を行っている。これらの事を介護同士の研修で理解出来るよう配慮し、地域の方には外出する機会を通して認知症の方への理解へと繋げていけるよう努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議が、コロナ感染症拡大のため中止となっている。今後は自己評価・外部評価の結果を得たことをモニターを通して運営推進会議の開催などで意見交換の場に繋げていけることが期待できる。	大和市の施設内会議中止の要請を受け書面開催に切り替えました。2ヶ月に一度施設全体の状況、並びに各ユニットごとのイベントや連絡事項を報告資料にまとめ構成委員に配付しています。なお各委員とは「事前確認シート」で意見や情報の共有を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険の認定調査時、更新や変更時期には、認定調査が実施されるよう事業所の担当職員と市町村担当職員が日程調整と利用者の配慮に努め、円滑に調査が実施出来るよう情報の伝達及び連携を図っていけるよう取り組んでいる。	運営推進会議の報告資料や事故報告書などは、大和市の窓口へ直接持参しています。また介護認定の更新や生活保護受給者の受け入れなどで担当窓口と情報交換を行い良好な関係を築いています。大和市主催の講習会をオンラインの動画共有サービスで受講し、受講の結果と確認を大和市にメールで送っています。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に関行される身体拘束委員会に参加した職員が、パソコンを通じて掲示板に記載した内容を職員間で共有し、身体的拘束をしないケアを理解し、職場で徹底的な身体拘束をしない取組みを行っている。	法人主催の各種委員会に「身体拘束防止及び虐待防止委員会」が組み込まれています。当委員会の職員は議事内容をWeb社内掲示板に載せ周知徹底に努めています。日頃から、如何なる身体拘束も一切しないことを旨とし、家族には身体拘束に対しての取組みの細かい説明を事前に行っています。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体的虐待だけでなく、利用者と接する時は声のトーンの工夫や、優しい言葉掛けを心掛け、心理的虐待防止の取組みにも努めている。	虐待の防止を身近な問題として取り組んでいます。虐待に繋がる行為が認められたときは、ユニットリーダーを通して指摘することを基本としています。管理者は、職員の疲労やストレスを減らすことが、虐待防止に有効であることを十分認識し対応しています。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	「成年後見人制度」、「日常自立支援事業」の利用対象者の対応について、職員は説明やアドバイスを行い、制度の活用が円滑に進められるよう協力し、支援に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書等を交わす段階での料金説明は基本であるが、利用時に予測できない体調不良やその後の経過において医療と連携し、料金が発生する事を説明し了承を得ている。	
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的に関行へ手紙を郵送し、心身面や生活の状況を伝えている。また体調の変化が見られた時は、その都度家族に連絡し、心配な事があれば気楽に相談してもらえるような雰囲気作りに努めている。	細かい事も家族に確認し、家族と一緒に利用者に向き合うようにしています。コロナ禍により、面談は中止していますが、ユニットの入口でいつでも「顔合わせ」を行っています。2ヶ月に1度、職員直筆の「たより」に利用者の日常の様子を写した写真を添えて家族に郵送しています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月一回ユニット会議実施。またその都度職員が意見や提案をしやすいよう、温和な雰囲気や迅速な対応に心掛けている。年一回の個人面談実施。	管理者は、日頃のコミュニケーションを大切にし、何でも言える雰囲気作りに努めています。月1回行うユニット会議で職員同士の情報や意見交換をしています。事業所の行事やイベントは職員の企画や提案を多く受け入れ実施しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	不安や心配事を抱えたまま仕事をする事が無いよう、その都度職員個々の状況を把握し、フォローできる体制を整えている。	法人内で就業規則の勉強会を実施しています。職員用がソファで休息できる休憩スペースを設けています。人事考課は年1回の面接と自己評価を経て、法人の執行理事が最終決定しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常勤・非常勤職員全員対象の年二回の法人内研修や、習熟度に応じた介護技術研修、新人・リーダー研修や委員会と通じて、各分野の外部研修と情報共有	年間の研修プログラムが整備されています。法人内の各種委員会での研修や勉強会に加え、外部講師による介護技術研修を毎月実施し、職員のスキルアップとサービス向上に役立てています。また個人的に外部研修を受けた場合でも費用の30%を補助しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	大和市内の同業者との事例検討や発表会、医療関係者主催の勉強会、年一回のかながわ高齢福祉研究大会に参加していた。 現在はコロナ禍のため中断。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前の面談で、必ずご本人様にお会いし、職員と情報を共有することにより、安心して生活していただけるよう柔軟な対応と工夫を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの経緯、現状、家族の要望を、時間をかけてゆっくり聞き取り、安心して相談いただけるよう一つひとつ丁寧な話し合いを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事業所としての特性を交えながら、本人と家族の気持ちや現状を尊重し、その方に応じたサービスの提案や対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お互い様という気持ちを常に意識し、支援に当たっている。まあ家事や得意分野を通して、共に暮らす生活者として年長者から学び、支え、励まし合う場面や時間を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	大切に想う家族の気持ちに寄り添い、共有しながら協力関係を築けるよう、面会や電話で日頃の様子や、何気ないエピソード、変化などをこまめに報告している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	下っていた姪御様との葉書のやり取り、飼っていたペットの供養、信仰しているおてらでの先祖供養等、お一人おひとりの生活習慣や温かい交流が途切れる事無く継続出来るよう支援している。	コロナ禍のため、旧知の訪問者もなく、外出も中止しています。施設内で過ごす時間を大切に過ごせるように工夫しています。在宅時から慣れ親しんだ、雑巾作りや新聞の切り抜き、料理など、馴染みの手伝いをしています。職員は利用者に寄り添い共に生活し、サポートしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	隣に座る時等は、性格等把握し、コミュニケーションが図れるように支援している。 (日光浴・行事・普段の食席等)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	申し訳ございません。 わかりませんでした。 いつでも対応出来るようにしておりますが、今まで一度もありませんでした。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居される時に、ここでの暮らし方の希望を聞いている。 また困難な場合は、本人の意向を尊重している。	不安が高じる入居時や、施設に馴染んで「ここで暮らしていく自分」に折り合いをつけた頃と、その時々を利用者の気持ちを、日々のコミュニケーションの中で把握しています。言葉以外でも、表情やしぐさなどから、利用者の思いや意向を汲み取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・コミュニケーションの中で、家族の事、仕事、今までの環境等を把握している。 ・入居される時の状態を把握。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日により体調が悪かったり気分が優れない等、食事は居室で食べたり、好きな物を提供している。 また医療につなぐ時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	長期入所されている利用者家族の知っている症状と異なって来る。 密に丁寧な説明を行い、理解してもらう。	サービス実施状況と目標達成度を、モニタリング表にまとめます。プランを継続する際にも1年半ごとに家族へプランを提示し、承認を得ています。プラン更新期には、食事や排泄など各項目について、家族の意向を書面にて把握してプラン作成に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の体調の変化に注意しながら、職員同士協力しながらケアを続ける。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	これからもチームワークを大切に、観察力や意見交換、連絡を大切にしていきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自己評価無し。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	日々の利用者の体調変化など、申送りなどで職員同士確認し、正確に伝える事。	月2回の訪問診療では内科をはじめ、精神科や皮膚科などの専門医の診療が可能になっています。受診内容はまず家族に伝え、その後医療ファイルなどの記録を通じて、職員間で共有しています。訪問マッサージ利用時には、屋外歩行訓練も取り入れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入浴や着替えの時に皮膚状態等を見て、異常や異変に気付いたら職員同士で情報を共有し、医療に繋げ緊急時は直ぐに医療に報告出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	もし入院してしまったら、退院する時に医療や家族と入院時どのように過ごしていたか、自立度がどの程度あるかを共有していきたいです。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族・医療・施設で良く話し合いをして、本人や家族の意向に沿った支援を行えるよう心掛けています。	契約時に看取りの方針を確認し、最期を迎える場所や延命治療を望むか否かなどについて確認しています。家族には「選択肢が沢山ある」ことを伝え、利用者の状態変化の都度、その時々揺れ動く家族の気持ちに沿って支援し、安心に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時は他職員と連携して、医療に繋がります。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時は落ち着いて対応出来るように、マニュアルや通報機の位置の把握をしています。	避難訓練は年2回昼夜想定で行い、運営推進会議にて訓練開催を伝えていきます。施設内に主食、副食、飲料水を備蓄するほか、緊急時マニュアルの読み合わせも継続しています。BCP(事業継続計画)については、来年度に法人内の策定委員会が始動する予定です。	来年度には法人の策定委員会動き出す状況であり、早急のBCP策定が望まれます。事業所版BCPに基づいて、災害時と感染症発生時に早期の事業復旧を目指すことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	このユニットには尊重とプライバシーが実装されており、ユーザーが介護施設というよりも家の様に感じていることがわかります。	年長者への尊敬の念を大切に、日々の支援をしています。馴染みの関係が馴染み合いとならないように、言葉かけや態度に注意を払っています。入浴や排泄介助の際も、利用者の羞恥心に配慮しています。居室の鍵を自己管理したいとの利用者の希望を認めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	私の評価に基づいて、ユーザーは理解のレベルに応じて自由に決定、または選択できます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の都合に合わせて、施設内での一日の過ごし方を自由に決めていただく事も可能です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一部のユーザーは、着る服の選択に関して自分で考えて決定することが出来ないため、これらは実際には実装されていません。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は利用者が決めるものではありませんが、利用者が自分の意思で調理を依頼し、手伝う事が出来ると思います。	食事の際はテーブル拭き、配膳、下膳など、利用者が率先立って参加しています。食事のレクリエーションが豊富であり、手打ちうどん、黒糖饅頭、フルーツ大福などの手作りスイーツなど、食の充実さに努めています。新茶飲み比べやノンアルコールビールの楽しみなど、利用者の思いを常に考えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々に合わせた食事量、食形態をその都度ユニットで話し合いによって決定し、共有している。 水分摂取が進まない利用者には、好みの物を提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	その方に合わせたタイミングと声掛けを行い、前向きな気持ちで口腔内の清潔保持出来るように心掛けている。 義歯は洗浄剤で洗浄消毒をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立支援、尊厳に沿った介助方法をユニット全員で共有し、その方に適した支援をしている。	トイレでの排泄を大切にしています。 排泄チェック表から排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけを行っています。最初はトイレに座るところから始めて、トイレでの排泄に結び付いた例もあります。労力をおしまずに、利用者の状況に応じて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方が多いので薬も用いるが、基本的には食事や水分量、出来度に身体を動かすことで解消できるようにしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの好みや気持ちに合わせて、職員都合にならない声掛けと実施の工夫をしている。 入浴が楽しくリラックスしたものになるよう努めている。	週2回、午前中に入浴を基本としていますが、入浴拒否の人には夕方の対応も試みています。声かけによる安全確保の上で、一人での入浴の希望も実現しています。また皮膚疾患の症状が見られる時は、医師の指導のもと足浴やシャワー浴を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの起床・就寝時間を、その方に合わせ行っている。 全介助の方に対しては声掛けし、気持ちを確認して行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用、用法容量をある程度は理解しているが、全員が理解しているとは言い難く、一覧表もあるが周知されていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活の流れを理解し、その方の生活や体調に合わせた楽しみごとの支援を行いつつ、集団生活の利点である皆で楽しめる歌や体操などを行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルスによる外出制限のため、ほとんど外出出来ていない。	コロナ感染状況を見計らいつつ、外出を実現しています。施設周辺の梅林を愛でたり、神社まで足を伸ばしたり、ドライブがてら公園散策に行くなど、気分のリフレッシュを得ています。施設のベランダに陽光で外気浴もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が管理出来る方には、本人の希望に応じて所持・使用し、不安感軽減のため職員との共有も出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話・郵便の希望があれば支援している。 家族等から電話が掛かってきて本人とお話しされたい時は、会話をしていただいている。 郵便が届いたら本人に渡している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日掃除をしている。 季節に合わせた飾りつけをしている。 フロアにはテレビもあるが、静かな音楽、懐かしい音楽を流したり、ビデオ鑑賞で楽しんで過ごされたりしている。	リビングや廊下は大きなガラス窓がある明るく開放的な空間となっています。「施設は利用者の家」のモットー通り、一般家庭用の食卓テーブル3台設置し、ゆったりとした和みの雰囲気を大切にしています。利用者がお気に入りの場所で寛げるようにソファやイスの配置にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファに座って新聞を読んだり、日向ぼっこをしたり、傾眠したり、ベランダに出て外気浴をしたり、職員も交えて希望者とカードゲームや折り紙をしたりして、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた日用品を、本人家族の希望で持ち込んでいただいている。 一人で鑑賞できるように、テレビ、CDなども持ち込まれて、部屋で心地よく過ごされている。	持ち込み品には、仏壇、家族写真、手作り品、藤イスなどがあります。居室にはセンサーを設置せず、ドアの開閉音で十分利用者対応できるように努めています。季節の寝具や衣替えは基本的には家族対応であり、家族も利用者支援の一翼を担っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は移動しやすい様に、手すりを設置している。椅子・テーブルは安全性を考慮して使用している。 各居室には表札を付け、トイレのドアには「トイレ」「便所」と迷わない様に明記している。		

事業所名	グループホーム そよ風
ユニット名	3階 けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
		○	4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域連携という点では、感染症対策を優先しており実施出来ていないが、そよ風理念に素づいた一人ひとりに合った支援、笑顔で家庭的な暮らしの実現は出来ていた。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染症対策のため縮小しているが、管理者が自治会や運営推進会議に参加していただいた方々との繋がりを現在も行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実施していません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的にそよ風の現状を、ユニット内の利用者の様子やユニット内の取組み等を報告しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者が行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	声掛けの内容について、不適切な言葉遣いにならないよう、ユニット会議などの場で職員同士が話し合っ、日々留意しています。 ケアが適切かどうか、職員で情報の共有を行っています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人研修で、理解や遵守に向けた取り組みを行っています。 常に意識を持ってケアを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行なっていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が入居前に説明を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプラン案内の際、また面会に来られた機械を利用して、家族への利用者の様子などをお伝えしています。 家族からの要望や意見は、この時に伺い、毎日の運営やケア・支援に反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度意見を聴く事があります。とても発信しやすく、月に一度のユニット会議では多くの提案があり、すぐにケアに反映させています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	特に回答無し ※回答が無い事も、自己評価の一つと捉え、そのまま記載をしました。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	特に回答無し		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	特に回答無し		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人が入居をした理由や、入居前の生活歴、家族との関係や好きな物や趣味等を情報収集し、安心できる言葉を探します。職員からこまめな声掛けを行い、不安な事があれば本人に寄り添い、お話を傾聴し安心できる声かけや対応で馴染みとされるよう工夫。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居する前から家族の意向を確認し、入居時にケアプランの説明を行います。プランの説明時にも家族からの要望や心配事に耳を傾けて、一緒に解決出来るよう努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホーム内で行える範囲の内容のものは、必要時に家族と本人へ説明し、素早く取り入れます。グループホーム外のサービス必要時は、メリットとデメリットの説明と、本人や家族が選択できる対応を行います。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	高齢者を尊敬し、いつも敬語で話しています。残存機能を維持または改善する事を目指し、本人が出来る事は、職員は見守りや一部介助を行うように対応しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の様子を電話や写真付きの手紙を送ります。ケアプラン見直し期間には、アンケートで意見をいただきます。お正月には本人から家族への年賀状を書き、親子の絆をずっと大切に出来るようにしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルスのため、友人との面会は解除されず、行っていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	話の合う入居者同士、食事テーブルを同じにしたり、ADLに合わせたレクリエーションを通し、個人が楽しめる環境を作るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	新型コロナウイルス感染症の心配があるため、イベント毎にはお誘い出来ていません。 他の施設や病院等へ移られた場合、ケアマネジャーや相談員等で、電話にて情報共有を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに合った暮らし方を考えながら、生活の支援をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族から前の暮らして来た情報を伝えてもらい、今の生活に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の生活を、職員全員で確認して情報を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャーを中心とし、ユニットで話し合いをもっている。また家族の意見や同意を得られるよう、やり取りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご様子、実施した支援、結果等を記録に残している。また必要な情報について申送りを行っている。定期的に会議でケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ニーズや必要に応じ、支援を行っている。 ・訪問マッサージやケア用品の手配 ・看取りケアの実施		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在はコロナの感染予防の観点から、地域との関わりが少なくなっている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	適切な医療を受けられるよう支援しており、定期的・臨時の際、掛かりつけの訪問医療に診てもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	必要に応じた訪問看護の方へ、報告相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報交換や関係作りを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人の身体状況に合わせ、今後についての説明や話し合いを、家族、医療と行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故の際の初期対応については、定期的に確認する場面があるが、応急手当については行っていない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に火災や地震に対する訓練を行っている。 施設自体が災害時、地域への避難場所となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人おひとりの性格や気持ちも考え、本人が嫌な気分等にならないよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自身で気持ちを表されない方等には、どれが良いのか選べるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	何かを実施する時も、ご本人の希望を優先し、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人に伺いながら、好み等も考え支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の会話や食事時の様子から、好み等把握し出来る方々には食材の皮むきや切ったりと、食後の食器洗いや拭き上げなど、その人その人の出来る事を手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各利用者の食べる量と、水分摂取量を把握している。持病がある人には栄養指導をしてもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きをしてもらっています。自分で出来ない人には、歯磨きの手伝いをしています。義歯は、夕食後洗浄剤に浸けて清潔保持に努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	なるべくオムツではなく、リハビリパンツを使用している。一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレへ誘導するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方には朝に牛乳を出したり、トイレで腹部をさすったりして排便を促している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴をする前に、本人の意向を聞くようにしている。入りたがらない時は無理強いせずに、次の日に回したりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入浴や行事など、疲れを感じている様子により、ベッド上やソファにて休息をさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬変更は、会議や書面にて確認をし、大切なお薬なので、誤薬・落薬防止の為注意を払っている。 大きな副作用がある薬については、目の付く場所に書面とは別に掲示すると良い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活の中、レクリエーションを通して機能にあった作業や、役割を見つけ、継続し続けられるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で感染予防のため、高齢者の外出は極力控えています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力に応じて支援している。 昨年は施設内でのバザーを企画して、買う楽しさを体験していただきました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族にはいつでも電話をして下さいと伝えており、話されています。またレクリエーションで絵手紙や年賀状を作成し、郵送しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適な空間には清潔さが大切と考えています。清掃は表を作成し、行っています。季節感日々取り入れています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リラックスして過ごせるように、ソファを配置しています。音楽を楽しむ方のために、懐かしいCD曲の用意もあります。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居される際には、家で使い慣れた物を持ってきていただくようにしています。季節に応じた寝具も、職員が調整し、出すようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	見て分かる事を大切にしています。トイレ表示は大きめに分かるようにし、口腔セットはカゴに入れて一人ひとり分けて置いてあります。		

2022年度

事業所名 社会福祉法人プレマ会 そよ風
作成日： 2023年 4月 21日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	・そよ風におけるBCP策定がまだ不十分となっている。	・BCP策定（2024年3月までに） ※感染症対策・自然災害	・法人内で策定委員を開催 ・そよ風のBCP策定 （自己評価が出来るよう、まずはたたき台プラン設定）	12ヶ月
2	11	・コロナ禍になってから、利用者の馴染みだった場所への外出が出来なかったり、そよ風へ来訪される方に制限が付いている。	・馴染みの人や場との関係継続支援	・感染状況を踏まえ、面会の機会を検討していく。 ・外出の機会を増やしていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月